長地の馬石

伊波厚徳（1901・M34）字伊良皆（00：52）

伊良皆ぬ大木原ぬ長地んでぃる 所 なか、 馬 ん似ちょーるなー岩ぬ在てぃ、なー口開ち、また 尾 んうち揃てぃさくとぅ。

くぬ口ぬ真向かーなかい上地村ぐわーんち在しが、其処ぬなーむる 栄 てーいかんなやい、くれーうぬ岩ぬ所以るえくとぅ。うり断ち落とぅしでぃやい、下 顎 ぇ断ち落とぅち。

また 尾 や、 尾 ぬ向かとーる 所 ぉ比謝村んち、其処んうぬ所以るやるでぃやーい、また比謝ぬ部落民ぬ集まてぃ 来 い、切り落とぅちさくとぅ。

なー、今ん、うぬ 馬 ぬ 形 ぇ有いやすしが、 昔 あんやたんどーでぃる伝え 話 やるばー。

【共通語訳】

伊良皆の大木原にある長地という所に、馬に似た岩があってね。馬が口を開けているように見え、また立派な尻尾の形にも見えたので長地の馬石と呼んでいるんだ。

その馬石の口が向いている方向には字上地があるんだが、字上地はちっとも栄えなくてね。それはこの馬石が字上地に向けて口を開けているからだと、馬石の下顎をたたき落したんだって。

また、尾が向いている方向には字比謝があって、そこもまた、馬石のせいで栄えないのだと、比謝の人たちが集まって来て尾を切り落としたそうなんだ。

今も、その馬石は残っているが、口と尾の部分が無いのは、昔、そういうことがあったという話だよ。